

特集

見えないところで暮らしを支える下水道

昔から清流・長良川の良質な地下水を暮らしや街の発展に活用してきた岐阜市。昭和初期から、水道・下水道の整備を進めています。今回は、衛生的で快適な暮らしを支え続けてきた下水道について紹介します。

次世代へ

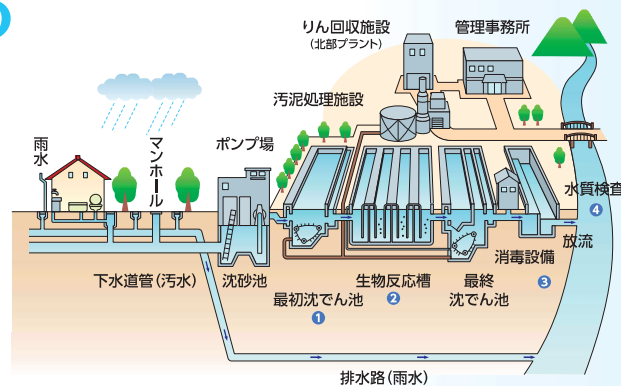
水がつくる豊かな暮らしを

(下水道の役割)

家庭や工場から排出される「汚水(おすい)」と「雨水(うすい)」を合わせて「下水」といいます。

汚水は、下水道管を通して下水処理場に運ばれ、きれいに処理して川や海にかえすことで、身近な自然環境を守ります。汚水が直接川や水路に流れることがないため、害虫や悪臭の発生も防止でき、街も清潔に保たれます。また、岐阜市の下水道には、汚水とは別に、雨水を速やかに排水する「雨水渠(うすいきょ)」が設けられ、豪雨などの際に街を浸水被害から守る役割も担っています。

● 岐阜市の下水道のしくみ



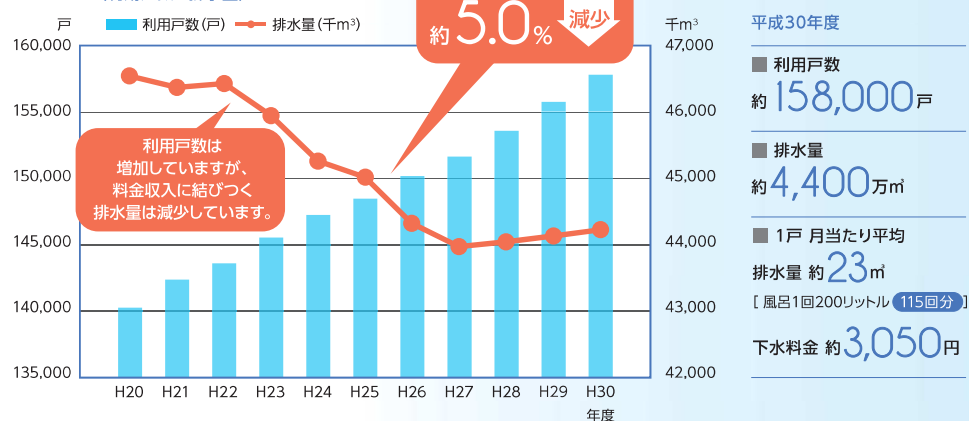
- 1 下水道管を通して各処理場に運ばれた汚水は、大きな浮遊物を取り除いた後、多くの微生物がいる生物反応槽に送られます。
- 2 生物反応槽では、多くの微生物が汚水の中の汚れ(有機物)をエサにして繁殖しており、その働きによって汚れが分解され、沈んでいきます。
- 3 微生物の力できれいになった上澄みを消毒し、川へ放流しています。
- 4 川や海的环境を守るために、放流水の水質を厳しく管理し、きれいに処理された水だけを自然に戻しています。

下水道事業を取り巻く環境

人口減少や節水型社会の進展に伴う排水量の減少により、料金収入は減少傾向にあります。このような中、下水道管や下水処理場をはじめとする施設設備の老朽化対策や耐震化等の対応を適切に行っていく必要があるため、経営

環境は今後ますます厳しくなっていくことが予想されます。このため、上下水道事業経営の健全化・効率化とともに、経営基盤の強化を図る必要があります。

● 岐阜市の下水道の利用状況(利用戸数と排水量)



岐阜市の下水道

岐阜市では、昭和9年に汚水(おすい)と雨水(うすい)を分けて処理する、分流式下水道を日本で最初に採用しました。

当時の下水道は、下水道管で集めた下水をそのまま川や海に放流するのが主流でしたが、岐阜市では昭和12年7月に下水処理場(現中部プラント)が稼働を開始し、当時の東京市、名古屋市、京都市、豊橋市に次ぐ国内5番目の下水処理場を有する都市となりました。

岐阜市の下水道は、市内を5つの処理区に分け、下水処理を行っています。下水道管の総延長は約2,233Kmで、下水道の普及率(下水道管が整備された地区に住む人口/総人口)は93.7%です。(下水道管総延長・普及率共に数値は平成30年度末現在)

